



## ご挨拶

梅雨も本格的になり、毎日のように雨が降って鬱陶しい天気が続きます。草も一気に伸びて、野山の緑も濃さを増してきました。自然豊かな久斗山ですが、近年、少しずつ異変を感じつつあります。昔は普通にいた生き物が居なくなり、見慣れないやつが増えてきている気がします。気がつかないうちに、自然の豊かさが損なわれてきているような、そんな不安を感じているこの頃です。コロナの緊急事態も解除になり、梅雨が明ければ夏が来ます。暑さに負けないで元気出しましょう！

## 【美しく見慣れぬ花は毒！？】

5月の終わりから6月の中頃にかけて、村のあちこちで、ホタルブクロに似たピンクの花が連なった背の高い植物を見たことがあると思います。ジギタリスという名前のヨーロッパなどが原産の園芸植物ですが、野生化しています。毒があって腹痛や吐き気、下痢、重症化すると死ぬこともあります。シカも食べないので増えています。綺麗だけど、ちょっと怖い花！



山の斜面に群生するジギタリス

## 【夜の生き物「ホタルとカエル観察会」開催】

今月度の地区公民館行事「夜のホタルとカエル観察会」を、6月19日の夜に開催しました。今回は浜坂青推協と連携イベントということで、町内各地の小学校からの参加もあり、35名からの人数になりました。

豊岡のコウノトリ市民研究所より講師をお招きし、暗くなるまでにホタルやカエルの種類生態などを勉強しました。7時半すぎに野外観察に出かける準備をしました。ヤマビルやダニなどの用心のため、全員が長靴を履き、帽子を着用し襟元にタオルなどを巻きます。橋の上からカジカガエルの鳴き声に耳をすませたり、ゲンジやヘイケボタル、田んぼの畦に産み付けられたモリアオガエルの卵塊、オタマジャクシから子ガエルに成りたてのアマガエルなどを観察しました。今年はホタルの発生には少し早かったのか、飛んでいる数も少なく、大杉神社のヒメボタルも見つかりませんでした。でも皆さん、久斗山の夜の自然に大満足してました。



カジカガエルの声に耳をすませ

**【危険生物(蛭、蜱、漆)に注意！】**

- **ヤマビル**：ここ近年、急に増えてきました。地表や木の枝先から付いてきて、雨の時など多い。塩水などで多少は防げる。血を吸われるとしばらく止まらない。
- **マダニ**：ヤマビルと共にシカの増加に伴い増えてきた。数mmと小さいが、血を吸うと小指の先ぐらいに膨れる。咬まれて無理に取ると口だけが残る。野外から帰宅したらすぐに着替えて、家に持ち込まない用心を。
- **ツタウルシ**：葉が3枚で赤い柄が特徴です。ツル状で身近にあり、触れる機会が多い。皮膚炎を起こします。



**【今どきのモリアオガエル】**

モリアオガエルは梅雨時期に産卵します。夜間、山沿いの池の上に張り出した樹木の枝先などで、泡状の卵塊を作ります。ところが最近ではなかなか適した産卵場所が無いようで、田んぼの畦に卵塊を作っているのを見かけます。泡の中には黄色い卵があり、孵化するとオタマジャクシが下の水面に落下します。晴れた日が続くと泡が乾燥して出てこれないので、雨が降らないと困るんですね。モリアオガエルの卵塊



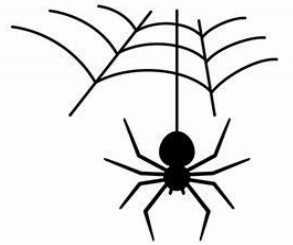
**【すこやかクラブ お話(?)会、開催】**

5月28日の金曜日、百歳体操が終わった後に久斗山すこやかクラブの皆さんで、5月18日にNHKBsで放映された安泰寺の修行風景の番組DVDの鑑賞会を行いました。PCで再生した小さな画面でしたが、皆さん熱心に観ておられました。



**○令和3年 7月の行事**

- 7日(水) 「湯村温泉魅力散策」 (10:00~11:30 新温泉町GPネットワークガイド研修会)
- 10日(土) 「ニッチな生き物教室」 (13:30~ 兎和野高原野外教育センター)
- 11日(日) 「畑ヶ平林道・滝ハイキング」 (9:00~15:00 上山高原エコミュージアム)
- 17日(土) 資源ゴミ回収 (7:00~ 久斗山地区子ども会・青推協)



NPO法人上山高原エコミュージアム

**上山高原キャンプ**

上山高原でテントを張り自然観察や星空観察、夕食はバーベキュー...そして満点の星空。

- 日時: 令和3年7月17日(土) ~ 7月18日(日)
- 場所: 上山高原 広場
- ・日程: 7月17日12:30 上山ふるさと館集合 18日11:00 現地解散
- ・参加費: 2日間 大人4000円(子供2000円)
- ・持ち物: 着替え、寝具、雨具など
- ※申込み締切り: 7月11日(日)

**【申込み・問合せ先】**

NPO法人 上山高原エコミュージアム  
〒669-6953 兵庫県美方郡温泉町石橋 757-1  
TEL:0796-99-4600 FAX:0796-99-4601



ウツボグサの花。子供の頃、穂から花を抜いて蜜を吸った。

**今月の野草**

**ウツボグサ**

農道わきや田んぼの畦など、日当たりのいい場所に生えます。初夏に草丈を延ばし、先端に花穂をつけ、青紫の花を咲かせます。名前の由来は、花の形が弓矢を入れるから。薬効があり、漢方薬で夏枯草(かこそう)と呼ばれるのは、花が終わって、残った穂が枯れたように見えるから。

**かってに昔話**  
あかなめの滝(第三話)

作、いっこう

トキ達若い狩人は、祭りの夜から後に何度も集まり、鹿を一気に狩る作戦を打合せしました。そして、いよいよ決行することになりました。晩秋のその日、いつもの年より初雪が早く降りました。ガンガンガン。ダンダンダン。ぼぼぼん。それ、それーっ！

「ヤーヤーヤー」

山の尾根に手分けして配置にいた若者達は大声と、拍子木や竹筒などを叩いて鹿を追い立てました。山中に奇声と騒音が響きわたり、木霊となつて共鳴した音に驚いた鹿の群れは、一斉に谷に向かかって走り、急な滝の頭からなだれ落ちたのです。次々と岩に叩きつけられた鹿の血で、滝の水も岩も、あたり一面が真っ赤に染まりました。

さて、その様子を遙かな高みから観ていた山の神は、人間の無慈悲な行為に怒りました。そして、その日を境に鹿や猪などすべての動物を隠してしまわれたのです。

滝の赤い色はその後も消えず、いつしか「赤滑の滝」と呼ばれるようになりました。動物が全然獲れなくなりました。狩人は、生きていくために農民になりましたが、山間の狭い土地では収穫は少なく、ずっと貧しい生活を強いられました。やがて時は流れ、山の神の怒りも静まって、山に動物が戻ってきました。しかし、狩人がいなくなつたので、山の鹿や猪は増え続け、人を恐れなくなつた動物は、農作物を荒らすようになりました。山菜や木の実もすべて鹿や猪に食べられ、山の恩恵も人に廻つてこなくなりました。この先、山はどうなるのでしょうか。(おわり)